

# 2019年度 学校評価報告書

対象期間： 2018年4月1日 ～ 2019年 3月31日

学校法人 センチュリー・カレッジ  
専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー

# I. 2019年度 学校関係者評価委員会 開催記録・議事録

## 1. 日時及び場所：

- (1) 日時：2019年7月25日（木） 18:30～20:30
- (2) 場所：専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 3階 第3教室

## 2. 出席者

### (1) 学校関係者評価委員

- 松崎 充意 （一般財団法人石川県予防医学協会 理事長）
- 竹内 郁登 （医療法人社団浅ノ川 千木病院 リハビリテーション部長）
- 田中 敬子 （保護者）
- 長谷田 敦志 （公立南砺中央病院 リハビリテーション室主任）
- 横川 茉美 （医療法人社団博友会 金沢西病院 作業療法士）
- 野倉 克利 （医療法人積仁会 岡部病院 作業療法士）

### (2) 本校教職員（オブザーバー）

- 加藤 謙一 （専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 校長）
- 黒田 智利 （専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 局長）
- 山本 達也 （専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 次長）
- 狩山 信生 （専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 学科長）
- 種本 美雪 （専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 学科長）
- 池嶋香澄美 （専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 副学科長）
- 曾山 薫 （専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 教員）

## 3. 欠席者

なし

[ 敬称略 ]

## 4. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 委員、教職員の紹介
- (4) 学校評価規程の一部見直しについて
- (5) 2018年度 自己点検・評価 報告
- (6) 各委員会の2018年度活動報告と2019年度重点目標および取組み
- (7) 財務状況 報告
- (8) 閉会

## 5. 配布資料

- ・評価シート（2018年度 自己点検・評価 結果表） ※事前送付
- ・学校基礎情報 資料 1 ※事前送付
- ・学校法人センチュリー・カレッジ組織図における  
「専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー学校評価の実施体制」 資料 2
- ・学校評価規程 変更（新旧対照表） 資料 3
- ・各委員会の重点目標及び施策 資料 4
- ・2018年度 決算報告書 資料 5

## 6. 議事録

### (1) 校長挨拶

### (2) 委員、教職員の紹介

### (3) 学校評価規程の一部見直しについて（校長 加藤）

本校の組織変更により「教務事業部」が廃止された旨の説明をおこなった。

### (4) 2018年度 自己点検・評価 報告および質疑応答（校長 加藤）

※各委員の評価・意見については「Ⅱ. 2018年度 自己点検・評価 及び 学校関係者評価 報告書」に記す。

※4.学修成果、7.学生の受入募集 の 実績は小数点第2位四捨五入。

## 3. 教育活動について

松崎委員) 学生のモチベーションを高める取組みについて、なにか進展はありましたか。教育改革で話題になっている「千代田区立麹町中学校」のように、専門以外の様々なプロを講師に招いて、特別講義を行うなど、金沢リハビリテーションアカデミーも学生のモチベーション＝修学意欲を高める取組みにチャレンジしてほしいと思います。

学長狩山) ご報告できるものはまだありませんが、教員に対しては大学で医学教育学を専門に研究されている教授陣を講師に招き、教員研修を実施してきました。内容は、学生に対する指導力・教育技法等の修得・向上を目指すものです。

松崎委員) 教員のモチベーションが学生の意欲に波及するので、教員のモチベーションを高め、維持する取組みについても、積極的に推進して頂きたいと思います。

竹内委員) 医療職の養成校なので国家試験に合格することは最低限必要なことですが、もうひとつ、卒後に活躍することが大切だと思います。在学中に何を学校で教わっておけば良いのか、良かったと感じているか、現場で活躍している卒業生に直接聞いて、教育活動に取入れていくのも良いのではないかと思います。

## 4. 学修成果について

### ① 2018年度 学科別の進級率・退学率及び退学理由

	進級率			退学率
	1年次	2年次	学科計	
理学療法学科	95.0%	74.4%	84.8%	8.7%
作業療法学科	77.8%	82.4%	80.3%	11.2%
全 体	88.1%	78.1%	82.9%	9.9%

退学理由： 進路変更（就職）17名、進路変更（就職以外）1名、病気・けが1名、  
学校生活不適應0名、除籍2名

（進級率 = 進級者数／年度始めの在籍者数 ※留年者を含む）

（退学率 = 退学者数／年度始めの在籍者数 ※除籍者、留年者を含む）

横川委員) 小・中・高校をはじめ、各種学校でもスクールカウンセラーを設置しているところが増えて  
います。担任や学校の教職員以外に相談窓口となる場所は設けられていますか。心理専門  
職の臨床心理士などに相談できる環境があることが望ましいと思います。

学長種本) ご指摘のとおり、現在は専門職が対応する相談窓口は設けられていません。担任制である  
一方、グループ単位の学生を教員が複数でフォローすることで話しやすい環境を作れるよう  
にしています。

② 2018年度 国家試験状況：

・受験者全体

	受験者数	合格率	全国平均
理学療法学科	36名	100.0%	85.8%
作業療法学科	34名	79.4%	71.3%
全 体	70名	90.0%	—

(国家試験合格率 = 第54回国家試験合格者数/受験者数 ※既卒生を含む)

・2018年度 卒業生

	受験者数	合格率	全国平均
理学療法学科	36名	100.0%	92.8%
作業療法学科	33名	81.8%	80.0%
全 体	69名	91.3%	—

(国家試験合格率 = 第54回国家試験合格者数/新卒の受験者数)

長谷田委員) 昨年度の理学療法学科は100%合格を達成しているが、どのような取組みをしたのですか。

学科長狩山) 本校は14期生から修業年限が3年制になり、短い修業期間の中で効率的な学習の仕方を模索してきました。昨年度の卒業生は17期生になりますが、16期生より、授業に先行して、1年次から国家試験のドリルを始める取組みを始めました。これによってクラスの雰囲気引き締まっていく手応えを感じていました。国家試験は難易度と、学生が本番で実力を発揮できるか否かによって左右されることもありますが、その取組みが結果につながったのだと思います。

学科長種本) 本校では国家試験対策委員会が取組みを推進していますので、作業療法学科も近い形で実施しています。

長谷田委員) 他校の実習生と比較すると、金沢リハビリテーションアカデミーは随分早くから国家試験を意識した学習をさせていることを感じます。このまま良い結果を出し続けられることを期待しています。

## 5. 学生支援について

横川委員) ボランティア活動の支援について“何のためにボランティアをするのか”という目的意識を持たせていますか。ボランティアを通して社会福祉や社会制度などを学ぶこともできると思います。実際にどのような形で行っているのかを教えてください。

学科長種本) 主として、学校にボランティア派遣依頼があるものに対し参加を促しています。目的としては、ボランティア活動は学生自身を豊かにしてくれると考えていますので、参加することそのものに置いています。挨拶、立ち振る舞い等の基本的なコミュニケーションを学ぶことはもちろんですが、人の役に立ち、地域社会をより良くすることに役立つことを伝えたいと思っています。

横川委員) 学生会主体の除雪ボランティアは、訪問リハビリ等でも除雪作業を行うことがありますので、活動を通して障がい者の役に立つことを学び得ることができると良いと思います。

野倉委員) 実習生や新人を指導していて、社会人としての立ち振る舞いが年齢の割に幼いと感じることがあります。実習や現場に出て“躓く”ということは、学生自身が考える“働く”イメージが現実とずれているのかもしれない。知識は入職後に付けていくことができるので、学校は国家試験合格と、ボランティア活動を促すことが現場を経験することにもつながると考えますので、是非ともボランティアを通して社会性を育むことに取組んで頂きたいと思っています。

司会曾山) 保護者の立場でご意見を伺えますか。

田中委員) 授業の予定が直前でなければ分からないことに困っています。

学科長種本) 半期ごとに時間割枠を決定し、1ヵ月前には予定を確定し、なるべく変更の無い様に努めていますが、至らない点は改善できるよう努力をしていきます。

校長加藤) 外部の非常勤講師に関しても、なるべく変更が無い様に協力を呼び掛けて改善に努めたいと思います。

## 7. 学生の受入募集

・2019年度学生の受入状況：

	入学者数			学生数			収容定員 充足率
	男	女	計	男	女	計	
理学療法学科	23名	15名	38名	72名	35名	107名	89.2%
作業療法学科	9名	17名	26名	36名	43名	79名	65.8%
全 体	32名	32名	64名	108名	78名	186名	77.5%

松崎委員) 社会人入学者の割合はどれくらいでしょうか。学び直しをしたい方に対して門戸を広げていることをアピールして募集活動を強化してはどうでしょうか。

学科長狩山) 例年、約1割前後です。

校長加藤) 社会人の学び直しを支援する文部科学省の給付金制度について本校のホームページでも案内をしていますが、ここ数年で社会人入学者は減少傾向にあります。高校訪問でも景気が後退すると進学者が増え、景気が良くなると就職者が増えると同います。

松崎委員) オリンピック後の景気後退に備えて、社会人が受験しやすく、積極的に受け入れている学校のイメージを今から作って準備をしておくことが大切だと思います。

竹内委員) 社会人入学者の職種はどういった方が多いですか。傾向があれば、そこに向けて募集活動を強化してはどうでしょうか。

学科長狩山) 職種の傾向はありませんが、大学の中途退学が多いという印象を持っています。

長谷田委員) この10年程で社会人経験のある実習生が減っている印象を受けるのですが、我々が在学していた頃に比べて、社会人入学者の割合が少なくなっていますか。

松崎委員) 北陸は有効求人倍率が全国でも高いため、その傾向は特に強いかも知れません。

野倉委員) 精神保健福祉士や看護師は社会人からの転身者が増えています。年齢も30代～50代まで幅広くいらっしゃいます。一概には言えませんが、理学療法士、作業療法士は現役のイメージが強く、国家試験のハードルの高さもあり、社会人には門戸の狭さを感じさせるものが影響しているのかもしれない。入学後は社会人は目的を持って資格取得に勤しみますので、社会人の受験科目を検討してもよいかもしれません。

(5) 各委員会の2018年度活動報告と2019年度重点目標および取組み（校長 加藤）

長谷田委員）北陸三県以外の出身者はどのくらいいらっしゃいますか。

学科長狩山）現在はほとんどいません。

長谷田委員）北陸三県以外に就職した卒業生に対して支援やフォローアップ体制はありますか。もしくは、計画はありますか。

松崎委員）卒業生のフォローアップ体制について評価の数値が下がっていますが(5-(9))、今年度の具体的な改善計画はありますか。

学科長狩山）実習地訪問の機会に近隣で働く卒業生を訪問することはありますが、教員個人レベルであり、学校としての改善計画は立てられていません。  
理学療法学科では研修会を企画して、卒業生にSNSで参加を呼びかけています。

学科長種本）作業療法学科は職能団体と連携して卒後教育を模索しています。研修会の参加を呼び掛けたり、卒業生を講師として招請し、授業やオープンキャンパスで協力を頂く等の繋がりを持っています。

松崎委員）卒業生同志が交流している姿は、在校生にとってとても魅力的だと思いますし、それらは何かあった時の大きな力になると思います。卒業生との繋がりを継続していくことが大切で、親睦会や研修会、小規模でもよいので、是非とも力を入れて取り組んで頂きたいと思います。

校長加藤）指定規則改正によって臨床実習指導者講習会が必須となりますので、良い機会と捉え、交流に努めていきたいと思っています。

(6) 財務状況報告（次長 山本）

竹内委員）繰越資金の減少額は学生の何人分に換算されますか。

次長山本）約15～16名です。

以上

記録：橋本尚子

## Ⅱ. 2018年度 自己点検・評価 及び 学校関係者評価 報告書

対象期間： 2018年4月1日 ～ 2019年3月31日

評 価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

1. 教育理念・目標				
自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
1-(1) 学校の理念・育成人材像・教育目標は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.4	↘ 3.2	学 校	<b>評価 3.2</b> ・理念は不変のもので、流されるべきものではなく、これで良いと思います。 ・理念と目標達成に向けて、具体的な教育方針・方法を教職員全員で話し合い、組織として一貫性が持てるようにご尽力いただければと存じます。 ・「感動の共有」の具体例があれば、より伝わり個々の意欲にもつながるかも知れません。 ・理念などはホームページを利用して丁寧に説明してあると思います。 ・学生への、または保護者への周知は、伝える事と同じく、伝わり度合を学校側が確認できたら良いと思います。 ・現実的には学生が理念や人材育成像などを理解するのは難しいかと思います。 ・外部講師による業界の風を取入れていると感じます。
1-(2) 医療福祉業界の要望・意見等を踏まえた学校の将来構想を策定しているか	3.1	↘ 3.0	学 校	
1-(3) 学校の理念・育成人材像・教育目標などが学生・保護者等に周知されているか	2.4	↗ 2.9	学 校	
1-(4) 育成人材像・教育目標は、医療福祉業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.0	↗ 3.1	学 校	
<b>【課題】</b>	<b>【今後の改善方策】</b>			
1-(1) ・理念や育成人材像は定められているものの、「感動の共有」「凜とした医療人」は抽象的である。 ・専門分野における理学療法士と作業療法士の特性をホームページ等でもっと説明した方がいいのではないか。	・本校ホームページやパンフレットに具体的な育成人材像を掲載すれば、教職員にも浸透していくと思う。 ・理念や育成人材像を全職員が他へ発信できるよう勉強する機会を設けてはどうか。 ・「凜とした医療人」に育成するための目標と具体策を細分化して設定し、共通認識を持つ。 ・育成人材像に対する現状の到達度合いをまずは確認する。			

1-(2)	・近年の入学希望者数の低下を考慮した育成人材像や教育目標の設定が必要かと思う。	・教職員各自からの意見交換の場を設けて、最善の方向を模索する。
1-(3)	・入学後に保護者への情報提供を行う機会を作る。 ・保護者への周知状況が十分ではないと感じる。	・ホームページの保護者向けのメニューを開設し、教育理念や取り組みについて分かり易く掲載すると共に、行事情報も更新していく。
1-(4)	・業界のニーズ（要望・意見）を取り入れることが不足しているように感じる。	・外部組織との意見交換等を積極的に行い、業界から本校に求められる育成人材像を確認し、本校の理念に合致する形で、教育目標に定めていく。
<b>【 成果・特記事項 】</b>		
1-(3)	・不登校などの学生の変化に対して、早期から保護者と密に連絡を取り対応した。 ・就職活動に関する保護者説明会を新たに企画し、8月に全学年対象に開催した。	

## 2. 学校運営

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
2-(1) 医療福祉分野の職業教育を念頭においた運営方針・事業計画が策定されているか	2.8	↗ 3.2	学 校	<p>評価 2.8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の改善方法に記載されているように職員の担当割りや責任者を決めて、責任の所在の明確化やスピード感を持ってプロジェクトに取り組めるようにしていただきたい。また、管理者は一部の方に業務過多とならないように注意していただければと思います。</li> <li>・2-(1)に関し、①教育現場と臨床との開き ②臨床と協会の開き の2点が課題と捉えます。①について、変革が大変速度感があり、臨床が追い付いていません。②について、指示は下りても双方向のやり取りがなく、現場が追い付いていません。</li> <li>・2-(6) 臨床実習指導者会議等で十分な説明はいただいていると感じます。</li> <li>・学校運営に関する情報公開はなされていると思います。</li> <li>・ホームページにて情報公開されている点は良いと思います。</li> <li>・2-(7) ICTを取入れていくのはとても良いと思う。</li> </ul>
2-(2) 意思決定機能、指示命令系統は組織機能図において明確化されているか	2.6	↗ 2.7	学 校	
2-(3) 前項（意思決定機能、指示命令系統）は有効に機能しているか	2.2	↗ 2.5	学 校	
2-(4) 就業規則は整備され、教職員が常に確認できるようになっているか	2.5	↘ 2.4	事 務 局	
2-(5) 人事、給与に関する規程等は整備されているか	2.8	↗ 2.9	事 務 局	
2-(6) 学校運営に関する情報公開が適切になされているか	3.1	↗ 3.6	自 己 評 価 委 員 会	
2-(7) 組織体制の整備、情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.7	↗ 2.8	事 務 局	



【課題】		【今後の改善方策】
2-(2) 2-(3)	・意思決定機能、指示命令系統は整備されているが、実働においてスムーズに運営しにくい場合がある。	・理事会や定例の管理職の会議の決定事項を共有するための部署を横断する会議があるとよい。 ・学事を含めてひとつひとつの事柄において実務責任者を決定する。 ・業務内容が類似するものを統合や整理し、業務担当部署の一覧を作成、配布する。
2-(6)		・情報公開の内容が十分であったかを振り返る。
2-(7)	・ICT（情報通信技術）も含めて、業務効率化に対する改善が必要と感じる。 ・効率化に向け、業務マニュアルがアナログで纏まってほしい。 ・各プロジェクトに委員会を設け、業務や役割を分担して学校運営を行っているが、委員を兼任する教員は業務過多になる。	・来年度、Wi-Fi 環境および情報の共有ができる設備を整える予定である。 ・プロジェクト自体を縮小するなどのスリム化を行う。又委員の任期を延ばして安定した改善活動を行う。
【成果・特記事項】		
2-(7)	・教育システムの展示会に教員が参加し、機器・システムの導入に積極的に関わっている。 ・教務事務担当を配置し業務の整理を進めている。	

### 3. 教育活動

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
3-(1) 学校の理念・育成人材像・教育目標に沿った教育課程(カリキュラム)が体系的に編成されているか	3.0	↗ 3.1	教育課程編成委員会	<b>評価 3.2</b> ・教職員が考える理想の授業とはどんなものかを話し合い、それを目標とすることで中長期の計画を立てやすくなると思いますし、日々の授業の成否を教員の方ご自身が分かりやすくなると思います。また必要であれば、教職員に対して教育力・指導力を向上するための研修など積極的に行っていただければと思います。 ・学習時間の確保等も国試合格率が全国水準よりも高い事からも充分と考えます。更なる結果の為に、外部講師の質をどの様に担保するのかや、実習に於ける職業人適性をどう評価するのかのガイドラインの様なものを共有出来たらと考えます。
3-(2) 学科の修業年限に対応した教育到達レベルを明確し、学習時間の確保はされているか	3.4	↘ 3.2	教育課程編成委員会	
3-(3) 医療福祉分野の病院施設や団体との連携により、実践的な職業教育の視点にたった教育課程(カリキュラム)の編成・見直し等が行われているか	3.2	↗ 3.3	教育課程編成委員会	
3-(4) 医療福祉分野の病院施設における実践的な職業教育(実習等)が教育課程(カリキュラム)において体系的に位置づけられているか	3.4	↘ 3.3	教育課程編成委員会	
3-(5) 実習や講義等を委託する場合、教育目標及び教育到達レベルを明確にしているか、情報共有を図っているか	3.3	↘ 3.2	教務委員会	
3-(6) 授業評価の実施体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.5	↘ 3.4	教育課程編成委員会	
3-(7) 授業評価結果に基づき、目標設定および授業改善が行われているか	2.7	↗ 3.1	教育課程編成委員会	

3-(8)	外部(卒業生、保護者、医療福祉分野の病院施設や団体、地域社会等)からの評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか(アンケート、訪問・会議によるヒアリング等)	3.1	↗	3.3	自己評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間という期間の中で、医療人として必要となってくる知識を学ぶのは大変かと思えます。</li> <li>・外部の声が届き易い様な学校側の配慮を感じます。</li> <li>・知識は現場で身に付くものも多いのですが、職業人適性で悩む新人にならぬ様、具体策を示していく事も必要と感じます。</li> <li>・学校で在学中に受けた教育が、卒業後の現場でどの様に役立っているか、あるいは、在学中に学んでおいた方が良かったことはないか、卒後数年目の方々からアンケート等で意見をまとめてみても良いかも知れません。</li> <li>・教員の皆様の学生指導に対する情熱と努力には感銘を受けます。</li> <li>・学校(医学)教育を授ける教員の負担はでると思うが、教員の学びの支援はあるのか。</li> </ul>
3-(9)	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.4	↘	3.0	教務委員会	
3-(10)	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	3.5	↘	3.3	国家試験対策委員会	
3-(11)	学校の理念・育成人材像・教育目標の達成に向けて計画的に人材(専任教員・非常勤講師)を確保しているか	3.3	↘	3.2	学 校	
3-(12)	医療福祉分野の病院施設や団体との連携において、要件を備えた人材(非常勤講師)を確保しているか	3.6	→	3.6	学 校	
3-(13)	教職員の専門的知識・技能等を修得・向上のための組織的な取り組み(講座・研修の受講、資格取得支援、各種学会・会議への参加等)はあるか	2.7	↗	3.2	学 校	
3-(14)	教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる組織的な取り組み(講座・研修の受講、専門家による指導等)はあるか	2.3	↗	2.8	学 校	
<b>【 課 題 】</b>			<b>【今後の改善方策】</b>			
3-(1) 3-(2) 3-(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の見直しが十分に行われているとは言い難い。</li> <li>・平成32年改正の指定規則に向けた備品の補充が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に授業内容を見直す機会の長期計画を作成する。</li> </ul>				
3-(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習では、指導者の多様化により委託実習施設内で本校の実習に関する認識の違いが出てきており、情報共有が難しくなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託実習施設への連絡は実習開始後は早期におこない、実習期間終了まで密に連絡を取り合う。</li> <li>・委託実習施設内の情報を教員間で共有する報告・勉強会を頻回に行う。</li> </ul>				
3-(6) 3-(7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育活動」全体について、改善取組を行っているが、まだ効果を実感できない。</li> <li>・授業評価結果はフィードバックされているが、授業成果向上に結びついていないとは言い難い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師の授業に関して、授業評価を積極的に活用(フィードバック)して、授業成果向上を目的とした改善活動を本校が主体性を持って継続的に取り組んでいくこと。</li> </ul>				
3-(13) 3-(14)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善や教員の知識・技能の向上のための研修は、指導体制や人材確保において学科による差が大きいことから、組織的な取り組みになっているとは言い難いと思う。</li> <li>・専攻分野における実務に関する研修は継続的に実施しているが、指導力の向上に関する研修は足りない状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的な視野で計画を立て、年度予算に指導力向上に対する予算を計上する。また年度ごとの年次計画に無理がないか、人員体制の点検を行う。</li> <li>・授業改善に結びつく、学内研修の企画、学外研修の受講、もしくは専門家や講師を招き教員に対する講座を行う回数や内容を増やす。</li> </ul>				

【 成果・特記事項 】	
3-(13)	・学内で教員全員を対象とした指導力向上のための研修を企画したり、教員相互の授業参観を実施した。
3-(14)	

4. 学修成果				
自己点検・評価 【項 目】	前回	【評 価】	担当委員会	学校関係者評価 【評 価 ・ 意 見】
4-(1) 就職率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.8	↘ 3.7	就職支援委員会	評価 3.5 ・相談室的な役割を持つ人材、場はあるのか。 ・就職率 100%は維持されているので継続して取組んで頂ければと思います。 ・入学直後の1年次に、これからの人生に対してのモチベーションを上げるような研修を徹底的にすることによって、学習意欲の向上、そして退学者減少につながると思います。 ・一定程度の退学者は致し方ない部分はあるかと思っています。 ・学生の個の部分が見えにくくなっている分、退学者の個人差は見えにくいかとは思いますが、実習を受ける側としては、社会脳を上手く発揮できない学生が気にはなります。 ・就職後の職場の様子について出身者からのフィードバック情報を集めても良いと思います。
4-(2) 資格取得率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.9	↘ 3.6	国家試験対策委員会	
4-(3) 退学率を把握し、その上で低減に向けた具体的な対策を実施しているか	2.8	↘ 2.5	教務委員会	
4-(4) 卒業生のキャリア形成（社会的な活躍や評価）を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか	2.5	↗ 2.7	教育課程編成委員会	
【 課 題 】	【今後の改善方策】			
4-(3) 退学率は把握されているが、退学に至る原因についての分析、それに伴う対応策が十分ではない。 これまでに無かった“成績や生活態度に特に問題の無い生徒が辞めていくケース”は、学生と教職員の間で意思の疎通が図られていないのではないかと思う。	・定期の面談を設定しているが、可能であれば時間と頻度を増やし、教員と学生の擦れ違いをなくす。 ・退学者の特徴を、事由・成績・出席状況・学校の志望動機等の因子で整理し、それぞれの対応を検討する。 ・1年次から学校生活面だけでなく、家庭状況の把握が重要ではないかと思う。			
4-(4) 卒業生のキャリア形成について、組織全体での情報共有は不十分であり、教育活動改善への活用も進んでいないように感じる。	・卒業生との接触機会を増やすことで、情報収集を強化し、キャリア形成等の情報を教員間で共有する仕組みを構築する。			

【 成果・特記事項 】	
4-(1)	・県内外からの施設の求人担当者を招致し、就職ガイダンスを開催した。
4-(3)	・1年次進級判定の時期を早め、進級再試験までの勉強時間を確保した。

5. 学生支援				
自己点検・評価 【項 目】	前 回	【評 価】	担当委員会	学校関係者評価 【評 価 ・ 意 見 】
5-(1) 学生の進路・就職に関する体制（運営組織、制度）は整備され、有効に機能しているか	3.6	→ 3.6	就 職 支 援 委 員 会	評価 3.2 ・今後の改善方策に記載してあることを実施していただきたい。また、卒業生のフォローアップがなかなか進捗していないように思う。比較的簡単にできることから手を付けたら良いと思います。 ・教職員の皆様と学生との距離感が大事かと思えます。 ・ボランティア活動自体は良いと思うが、合わせて社会制度などの知識も深められるような教育支援もあると就職活動や実習で活用しやすい。 ・年間および月間スケジュールを直前ではなく前もってお知らせいただけますと、とても助かります。病院等の予約するのにスケジュール確認が必要なため。 ・卒業後も学べる機会がもっとあると良いかも知れません。
5-(2) 学生相談に関する体制（運営組織、面談記録、定期的な実施）は整備されているか	3.3	↗ 3.4	事 務 局	
5-(3) 学生の経済的支援に関する体制（奨学金制度、減免制度）は整備され、有効に機能しているか	3.2	↘ 3.0	事 務 局	
5-(4) 学生の健康管理に関する体制（運営組織、健康診断の実施）は整備され、有効に機能しているか	3.6	→ 3.6	事 務 局	
5-(5) 学生主体の課外活動（学生会活動、ボランティア活動、クラブ活動等）を奨励・支援する体制はあるか	2.8	↗ 3.4	学生会支援 委 員 会	
5-(6) 前項（課外活動支援に関する組織体制）は有効に機能しているか	2.7	↗ 3.2	学生会支援 委 員 会	
5-(7) 学校生活指導・勉学指導への支援は行われているか	3.4	→ 3.4	教務委員会	
5-(8) 保護者へ学校情報の提供や面談を行い、適切に連携しているか（ホームページ、保護者報告会等）	3.2	↗ 3.4	教務委員会	
5-(9) 卒業生のフォローアップ体制はあるか（卒業研修、同窓会組織、1年後訪問、ホームページ等）	2.6	↘ 2.5	学 校	
【 課 題 】	【今後の改善方策】			
5-(2) ・面談は定期的に行っているが記録等の管理を習慣化する必要がある。	・システムの面談記録を活用し、体制を整える。			
5-(3) ・国の給付金制度が学生に周知がされておらず、“学生の利用しやすさ”の点からは乏しい。 ・本校独自の経済的支援制度がない。	・国や地方自治体、企業等が実施する支援制度に関する情報を広く収集し、在校生および入学予定者に告知する。 ・低所得者世帯への高等教育の無償化制度に並び、以前にも採用していた入学者への奨励制度、在校生に向けての給付型支援を検討する。 ・本校独自の奨学金制度や学費の減免制度の設置、家賃補助や学生寮を検討していく。			

5-(4)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の健康管理の一部として「メンタル支援」を目的とした学生相談室の設置を検討中。</li> <li>・学生の健康管理面において、食堂のメニュー(揚げ物への偏り)を改善する。</li> </ul>
5-(5) 5-(6)	・学生主体の課外活動における組織的支援はまだ不十分と思う。	・今年度から開始した「地域ボランティア」の活動を継続的に支援する。
5-(8)		・成績票の送付時、保護者にむけて国家試験結果や学校行事予定を同封する。
5-(9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生に関してはあまり表立った活動が見られない。</li> <li>・卒業生へのフォローアップが外部からもわかるようにする。</li> </ul>	・同窓会組織は会費を徴収しているので、同窓会の活動報告や、卒業生の近況などをホームページに掲載して広報を兼ねた活動ができれば良いと思う。
<b>【 成果・特記事項 】</b>		
5-(5) 5-(6)	・全学生に対しボランティア活動の参加を促しており、地域ボランティア、除雪ボランティア、エコキャップ運動といった学生会主体の活動が具体的にスタートした。またその活動に対して教員が同行支援している。	
5-(7)	・成績が不良な学生に対し、個別もしくは集団で補習を実施している。	

<b>6. 教育環境</b>				
自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
6-(1) 学校施設・設備は定期的に管理・点検され教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.1	→ 3.1	備品管理委員会	<b>評価 3.4</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生さんは学校から見るとお客様であり、そのお客様が過ごしやすい環境を早めに作ることは良いことだと思います。(無線LANや例えば新しいトイレなど)</li> <li>・電子ジャーナルが活用できると良いと思います。</li> <li>・実習施設においては今後様々な分野での実習が必要と考えられるので学生への配慮の程をお願いします。</li> </ul>
6-(2) 教育上必要な図書が系統的に整備されているか	3.0	↗ 3.3	図書委員会	
6-(3) 実習施設や国内外の研修等は整備されているか	3.3	↗ 3.5	学 校	
6-(4) 防災・安全対策(非常時の避難、誘導対策面、危機管理マニュアルの周知)は整備されているか	3.1	→ 3.1	事務局(庶務課)	
<b>【課題】</b>		<b>【今後の改善方策】</b>		
6-(1)	・管理者による施設設備の定期点検やメンテナンス、修繕を実施しているが、突発的な故障や老朽化が目立ち、学生に不便な思いをさせてしまっている。		・長期的な視点で、抜本的に新規購入等の計画を立てる。	

6-(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の本の更新が進みにくい。</li> <li>・以前に比べ整備されつつあるが、図書が系統的に揃っているとは言い難い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も更に新規図書を増やす予定である。新規図書購入において、学生の要望や教員の意見を聴取し購入する手法とサイクルを確立する。</li> </ul>
【 成果・特記事項 】		
6-(1)	・無線 LAN 環境等の整備に向けた調査・検討を開始した。	
6-(2)	・電子図書を中心に、多数の新しい本を図書室に導入した。	
6-(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も県民一斉防災訓練「シェイクアウトいしかわ」に参加した。</li> <li>・防犯用さすまたを設置した。</li> </ul>	

## 7. 学生の受入募集

自己点検・評価 【項 目】		前 回	【評 価】	担当委員会	学校関係者評価 【評 価 ・ 意 見】
7-(1)	学生の募集活動において、教育成果・実績等は正確に伝えられているか	3.6	↘ 3.3	事務局 (入試課)	評価 3.4 <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の大学等との学生の奪い合いがより本格化していくと思われるので、「良さ」をしっかりとPRしていただきたいと思います。</li> <li>・社会人としては方向転換を志しても大学等への入学はハードルが高いので、専門学校として入学し易い環境があったら良いかと思います。</li> <li>・リハビリテーションの魅力についてさらにアピールできると良いと思います。</li> </ul>
7-(2)	入学志願者の問合せ・相談に対する体制が整備され、情報提供（育成人材像、資格、学費・教材費、選抜方法）は適正にされているか	3.6	↘ 3.4	事務局 (入試課)	
7-(3)	学納金は妥当なものとなっているか	2.9	↗ 3.0	事務局 (入試課)	
7-(4)	入学辞退者の授業料に関して適正な扱いを行っているか	3.6	↗ 3.7	事務局 (入試課)	
7-(5)	入学予定者への入学前課題等の学習指導を実施しているか	3.7	↗ 3.8	入試委員会	
7-(6)	入学予定者に対してオリエンテーションを実施し、学校生活のための支援をしているか	3.6	↘ 3.5	入試委員会	
【 課 題 】			【今後の改善方策】		
7-(1)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士・作業療法士の違い、仕事内容を高校生がわかりやすくイメージしやすい具体的なものをパンフレットやホームページに記載する。</li> <li>・ホームページにリンクしている SNS の投稿をもう少し活発にして最新情報を発信する。</li> </ul>	
7-(3)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢や近隣校の調査を踏まえ、学納金の軽減や分納に関して検討をしていく。</li> <li>・学納金以外の負担を抑える。</li> </ul>	
7-(5)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前課題の効果検証を目的としたアンケートと小テストは継続して行い、課題内容の検討を継続していく。</li> </ul>	

【 成果・特記事項 】				
7-(5)	・入学前課題についてのアンケート、小テストを実施するとともに、入学前課題の取組開始以降の「解剖学」の成績を分析し、課題内容の改訂に反映した。			

## 8. 財務

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
8-(1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.8	↘ 2.7	事務局 (経理課)	<b>評価 3.3</b> ・財務は学生数と直結するので、高校生へのPR活動と共に在学生の中で退学者が出ないようにしっかりとフォローを引き続き行っていただきたい。子供を預ける父兄は退学率も気にすると思います。 ・適正と思います。
8-(2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか、また定期的に確認しているか	2.8	→ 2.8	事務局 (経理課)	
8-(3) 財務について会計監査が適正に行われているか	3.3	↗ 3.4	事務局 (経理課)	
8-(4) 財務情報公開の体制を整備し、適正に運用しているか	3.3	↘ 3.1	事務局 (経理課)	

【課題】	【今後の改善方策】
8-(1) ・18歳人口の減少と退学者数の増加によって学生充足率が下降傾向であり、 8-(2) 財政基盤が安定しているとは言い難い。 ・設備等の老朽化もあるので大きい支出も今後増えてくるのではないかとと思う。	・適切な予算の割り当てを行い、教職員に予算を周知し、予算通りに経費を使用する。 ・減収を見据えた予算組を行う。 ・就職率及び国家試験合格率を高めることで出願者を増やし、学生充足率を上げることに努める。

【 成果・特記事項 】				
8-(4)	・財務諸表がホームページに掲載されるようになった。			

## 9. 法令等の遵守

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
9-(1) 法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	3.6	↘ 3.5	事務局	<b>評価 3.3</b> ・個人情報保護は大事な事柄でありますので、共有ネットワークの閲覧制限などではできるだけ早め実施していただければと思います。 ・評価結果が公表されていて良いと思います。
9-(2) 学生および職員の個人情報について閲覧権限等の設定がされ、個人情報保護の対策が講じられているか	3.2	↘ 3.1	事務局 (庶務課)	
9-(3) 文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)、決裁規程(文書処理規程)、公印管理規程が文書化されているか	3.1	→ 3.1	事務局 (庶務課)	
9-(4) 自己点検・評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.6	↗ 3.7	自己評価 委員会	

9-(5)	自己点検・評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか	3.1	↗	3.4	自己評価委員会	
9-(6)	自己点検・評価結果を公表しているか	3.6	↗	3.8	自己評価委員会	
9-(7)	学校関係者評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	3.6	↗	3.7	自己評価委員会	
9-(8)	学校関係者評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか	3.2	↗	3.4	自己評価委員会	
9-(9)	学校関係者評価結果を公表しているか	3.7	↗	3.8	自己評価委員会	
【課題】			【今後の改善方策】			
9-(2)	・システムのセキュリティと個人情報保護対策は講じられているが、内部の共有ネットワークにおいて閲覧制限が不十分な個人情報がある。	・個人情報保護に関する講習や学内研修等を定期的実施し、教職員が反芻学習する。 ・共有ネットワークにおいて完全に許可を得た者にしかアクセスが出来ない設定を施し、閲覧制限を強化する。				
【成果・特記事項】						
特になし						

## 10. 社会貢献・地域貢献

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
10-(1) 学校の教育資源や施設を提供し、社会貢献・地域貢献を行っているか	3.1	↗ 3.3	事務局	評価 3.5 ・地域に開かれた学校を目指して頂きたいと思えます。 ・理学療法士・作業療法士の育成自体が地域貢献の一つと云えると思えます。志を持った学生の育成をお願いします。なお、地域ボランティアについても進んで参加し易くなるような工夫（終了後の懇親会など）をお願いいたします。
10-(2) 地域に対する生涯学習事業（公開講座、教職員の出張講座）の提供や教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を実施しているか	2.5	↗ 3.2	教員広報委員会	・中学や高校でリハビリテーションの入門の様な話をすると志願者増につながるかも知れません。



【 課 題 】		【今後の改善方策】
10-(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と地域との交流が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会貢献や地域貢献にはこれで十分ということがない事を念頭において貢献事業を行う。</li> <li>学校の周りを掃除するなど、勤務時間に教職員が学生と一緒に活動できる時間を設ければ良いと思う。また施設提供も継続したい。</li> <li>地域ボランティアを切り口に、その他にも貢献活動ができる場を紹介してもらい活動を広げる。</li> </ul>
10-(2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校祭で公開講座等を行っているが、十分かを検討し取組んでいく。</li> </ul>
【 成果・特記事項 】		
10-(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会や関係団体の会合や催物会場として、本校舎およびモリスホール、駐車場を提供している。</li> </ul>	
10-(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域ボランティアとして、冬期は地域の雪かきボランティアの体制を整えた。また月1回の地域のお寺で開催される茶話会へ学生が参加し、高齢者と交流を深める活動をおこなっている。</li> <li>学校祭において、一般や地域住民に対し公開講座を開催した。</li> <li>ハローワーク「職業教育訓練」の企業実習において、毎年事務局で事務職種の訓練生を受け入れている。</li> </ul>	